

ソーシャルワーク実習（実習 A・B）基本実習プログラム プログラミングシート（例）\_\_日本福祉大学

実習施設名：障害者支援施設〇〇	施設種別：障害者支援施設	作成メンバー：	作成日：202_年__月__日
-----------------	--------------	---------	-----------------

ソーシャルワーク実習 教育に含むべき事項 (国通知)		達成目標 (評価ガイドライン) ※各達成目標の具体例 は行動目標を参照	福祉経営学部（通信教育）  実習の達成目標	当該実習施設における実習の実施方法及び展開					
				学生に求める事前学習	具体的実習内容				指導上の留意点
					SW 実践の場の理解に 関する内容	SWr の理解に関する内容	SW 実践の理解に関する内容	SW 実践の理解に関する 内容（発展的）	活用する資料・ 参照物
①	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成	(1)クライアント等と人間関係を形成するための基本的なコミュニケーションをとることができる	1. クライアント等と人間関係を形成するための基本的なコミュニケーションをとることができる	・施設ホームページの閲覧 ・障害特性（知的障害、発達障害）について調べる	①施設の成り立ちやどのような人たちを対象としている施設なのか、説明を受ける ②施設が提供するサービスについて説明を受ける ③利用者と日常会話をし、話を聞く	①職員が利用者と会話している様子を観察する ②職員が利用者とジェスチャー等の非言語コミュニケーションを用いて関わっている様子を観察する	①利用者や保護者、施設職員、関係機関、ボランティア、地域住民等に、自ら挨拶、自己紹介をする ②利用者との会話を展開するために、自ら質問するなど、話題を提供する ③実習指導者に 1 日の出来事を報告する	①相手の話の意図をくみ取り、気持ちを想像しながら会話する ②必要に応じて、時と場所に考慮して、職員に相談をする	・実習生も施設職員の 一員であることを伝える  ・実習の初期段階は、 実習生の特性に応じて 利用者とかかわり 場面を実習指導者 がサポートする  ・施設パンフレット ・施設利用マニュアル
②	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成	(2)クライアント等との援助関係を形成することができる	2. クライアント等との援助関係を形成することができる	・傾聴の姿勢について調べる ・バイステックの7原則を確認する	①生活場面面接と構造化面接の特徴と施設での日常的な職員と利用者との会話の目的について説明を受ける	①職員による利用者との面接を観察する ②職員が利用者と生活場面面接や構造化面接を行っている様子や利用者とかかわっている様子を観察して、マイクロカウンセリングの技法に基づく言動を実習記録に記す	①かわり技法（視線、表情等）を用い、意図をもって利用者とは話をする ②基本的傾聴技法（言い換え、閉ざされた質問、開かれた質問等）を用い、意図をもって利用者とは話をする ③利用者の非言語の表出を観察し、その意味を考える	①実習生自身の対象者とかかわりを、バイステックの7原則をもとに自己評価し、自己理解を深める	・実習生が職員の様子を 観察することで利用 者が不快な思いを しないように配慮する ・技法について実習生 の理解度を確認しな がら指導をする  ・ケース記録
③	利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価	(3)クライアント、グループ、地域住民等のアセスメントを実施し、ニーズを明確にすることができる (4)地域アセスメントを実施し、地域の課題や問題解決に向けた目標を設定することができる (5)各種計画の様式を使用して計画を作成・策定及び実施することができる (6)各種計画の実施をモニタリングおよび評価することができる	3. クライアントや地域の状況を理解してその生活上の課題（ニーズ）を把握し、支援計画を作成・実施し評価することができる	・アセスメントからモニタリングまでのプロセスを確認する ・障害者総合支援法の概要を確認する ・サービス管理責任者の役割、資格要件について調べる	①サービス管理責任者の役割等について、事前学習の内容を実習指導者に報告する ②障害者総合支援法について説明を受ける（サービス管理責任者の役割、障害支援区分とサービス、職員配置等）	①サービス管理責任者から個別支援計画立案の留意点について説明を受ける ②ケース記録等、過去の資料を閲覧する ③個別支援計画作成の担当者会議に同席し、参加者の役割を観察し、個別支援計画作成のプロセスを踏まえ、施設指定の会議録を作成する	①利用者について、施設内での様子や交友関係を職員から聞き取る ②利用者とアセスメント面接を行う ③収集した情報をもとにエコマップ、ジェノグラムを作成する ④公共交通機関や社会資源等を把握するためにフィールドワークを行う ⑤アセスメント結果から利用者のニーズとストレングスを考え、実習指導者に報告する ⑥個別支援計画を作成して実習指導者に報告する ⑦個別支援計画を実施しモニタリングおよび評価を行う	①対象者に合った面接方法を探すために複数回アセスメント面接を実施する ②収集した情報をアセスメントシートに基づいて整理し、分析する ③モニタリング内容を踏まえ、個別支援計画を修正する	・対象者の選定は実習生と利用者の特性を 配慮した上で行う ・対象者について多職 種へ聞き取りを行う 場合は、伝える内容 に配慮し、実習生が 自ら考えられるよう にする  ・ケース記録 ・フェイスシート ・アセスメントシート ・個別支援計画 ・モニタリング表 ・個別支援計画作成時 の会議録
④	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価	(7)クライアントおよび多様な人々の権利擁護ならびにエンパワメントを含む実践を行い、評価することができる	4. クライアント等の権利擁護ならびにエンパワメントを含む実践を行い、評価することができる	・障害者権利条約、障害者虐待防止法、障害者差別解消法の概要を調べる ・合理的配慮、ノーマライゼーション、アドボカシーの意味を調べる	①施設で取り組んでいる合理的配慮と権利擁護の取り組み事例の説明を受ける ②虐待防止委員会の設置義務や委員会の取り組みについて説明を受ける	①職員の利用者とかかわりから権利擁護に基づく行動を実習記録に記す ②自己決定の支援プロセス（意思決定支援、意思表出支援）について説明を受ける	①利用者にとっての合理的配慮を考える ②利用者と権利擁護を意識したかわりをする（言葉遣い等） ③虐待防止委員会に参加し、その時の課題について自分の意見を述べる	①実習生自身で考えた合理的配慮の取り組みを実施する ②利用者が自己決定する場合について、より自己決定がしやすくなるよう工夫して支援し、実習指導者と評価を行う	・職員と利用者の家族 の会話場面に実習生 が同席する同意を得 る  ・法人の虐待防止規定 ・施設の行動規範 ・個別支援計画



